2026 年第２回 小論文検定課題

スタンダードコース

課題　「次世代に受け継ぎたい文化」について

制限字数＝800 字 時間＝60 分

進む少子高齢化と人口減少は、地域社会やそこで受け継がれてきた文化にも影響を及ぼしている。その一例として、岩手県奥州市の妙見山黒石寺で 1000 年以上にわたり行われてきた黒石寺蘇民祭が、関係者の高齢化と今後の担い手不足により 2024 年２月の開催を最後に歴史に幕を下ろした。伝統的工芸品に携わる人の数も、日本工芸産地協会によると 1998 年度の 11 万 5000 人から 2022 年度には約 4 万 8000 人まで減少。担い手不足に加え、需要の減少という側面から生産額も減少している。

伝統行事や祭り、民俗芸能、伝統工芸品、郷土料理など、時代の影響を受けて変化・消滅する可能性がある文化を次世代に受け継いでいくためには、その記録・保存、伝承者の確保・育成に国・地域を挙げて取り組んでいくことが必要だ。また、その地域の文化を伝承していくということを一人一人が意識していくことが求められている。

地域社会で受け継がれてきた文化の中で、あなたが次世代に受け継いでいきたいと考えるものは何か。具体的な例を挙げたうえで、受け継いでいきたい理由とどのようにして受け継いでいけばよいかについて 800 字以内で述べよ。

マスターコース

課題　「教育現場でのＡＩの活用」について

制限字数＝1200 字 時間＝90 分

教育現場でも AI の活用が加速している。文部科学省では「初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン」を策定。それに基づき、2023 年以降学習や校務で AI を活用するパイロット校を指定して、安全で効果的な活用方法の検証・研究を進めており、教育分野に特化した AI アプリの開発も進めようとしている。個別に活用の取り組みを進めている自治体もある。東京都では 2025 年 5 月以降、全都立学校で独自に開発した「都立 AI」を利用した学習を開始している。都立 AI では OpenAI のモデルなどをベースにしながら、児童・生徒が入力した内容を AI は学習しないなど安全に利用できる仕組みを取り入れている。

児童・生徒一人ひとりの理解度に合わせた最適な学習が提供できる、AI の提示する多様な視点や選択肢によって思考力・問題解決能力の向上が期待できるなど、AI は教育現場において個々の能力を補助し可能性を広げる有用なツールになり得る。その一方で、AI が出す最適解に頼ることによって主体性・思考力が低下したり誤った情報を正しいと受け入れてしまったりする可能性がある、著作権侵害の恐れがあるなど、活用することでのデメリットやリスクも指摘されている。

あなたは教育現場において AI を児童・生徒が使用する際、どのように活用していくべきだと考えるか。注意すべき点を挙げながら、有効的な活用方法について 1200 字以内で述べよ。